

平成 23 年度「キャリア意識調査」報告 (1) — 学生のキャリア行動、キャリア意識、 キャリア支援・教育の活用状況に着目して —

桂瑠以*・望月由起*・中越綾**

お茶の水女子大学 学生支援センター*・キャリア支援センター**

Career consciousness survey report 2011 (1) — On students' career activities, career consciousness, and utilization of career support and educational services —

Rui KATSURA*, Yuki MOCHIZUKI* and Aya NAKAGOSHI**

Ochanomizu University Students Support Center*, Career Support Center**

This paper analyzes the career consciousness survey in 2011. This survey was targeted at the undergraduates and master students of Ochanomizu University and focused on students' career activities, career consciousness, and the modes in which they utilized career support and education services.

The main findings are as follows: (1) Career activities and career awareness vary according to the academic year and course in which the students belong. Overall, students in Letters and Education, Human Life and Environmental Sciences, as well as ones in master courses displayed interest in applying for jobs; such students aspired for employment in private companies and/or in the public sector. Students in Science, on the other hand, displayed interest in further education at Ochanomizu University. (2) There was no obvious correlation between students' assessment of career support and their status of utilization of financial/living support. (3) Those who attended career related classes were generally more interested in seeking employment at a regular and/or general management position. Their aspiration for employment in large firms was greater than that of those who did not attend such classes. Based on these results, we determined effective support methods, in order to meet the needs of students.

keywords : career activities, career consciousness, career support, career education, condition survey

はじめに

近年、様々な社会変化や今日の状況の中で、大学卒業者の職業生活への移行の困難さが深刻な問題となっている。文部科学省(2011)の「平成22年度大学等卒業者の就職状況調査」によると、大学生(学部)の就職率は91.1%(4月1日時点)で前年同期を0.7ポイント下回ることが示されており、依然厳しい結果となっている。

そのような中で、大学においても、学生の就業力育成を図るキャリア支援、キャリア教育の重要性が高まっている。本学でも、キャリア支援の対策や取り組みを整備し始めているが、その実績はまだ浅く、学生にとって、十分な支援がなされているとは言えない。また、本学ではキャリア支援だけでなく、経済的支援をはじめとした様々な学生支援が用意されているが、こうした支援を統合的に行うためのシステムを構築していくことも必要であろう。

そこで、本調査研究は、キャリア支援を焦点として、学生の実情をふまえ、有益な学生支援の検討および実施を行うための資料とすることを目的とする。具体的には、以下の3点を中心とする。

謝辞

本調査は、国立大学法人お茶の水女子大学 学生支援センター「文部科学省特別経費プロジェクト・統合型学生支援システムの構築による女子高等教育機会の保証」(詳細は、<http://www.ocha.ac.jp/gss/index.html>を参照)に関わる調査の一環として行われた。ここに記して感謝の意を表すものである。

1. 本学の学生のキャリア行動、キャリア意識の特徴を把握し、学生のニーズを踏まえた支援を検討する。
2. 奨学金受給者、授業料免除者、寮生といった、経済・生活支援を受けている学生のキャリア支援への評価を把握し、どのような支援を行ったらよいか検討する。
3. 本学のキャリア関連授業がどの程度浸透しているかを明らかにし、今後どのように授業運営を行っていかばよいか検討する。

方法

調査時期と調査対象者

2011年10月～11月に、お茶の水女子大学学部1年生～4年生2091名および、大学院前期課程生546名を対象として調査を実施した。有効回答数は799名(30.2%)であり、内訳は、文教育学部生288名(30.2%)、理学部生176名(31.5%)、生活科学部生175名(30.2%)、大学院前期課程生156名(28.6%)であった。

調査方法と調査協力依頼

お茶の水女子大学学生ポータルサイトを用いたウェブ調査を行った。調査協力の依頼方法としては、お茶の水女子大学ホームページ、学生支援センターホームページ、学内掲示版、OchaML、教員向けMLでの告知、

図書館および情報基盤センターのTV画面への調査実施依頼の掲載、学内でのちらしの配布等により、学生への調査協力依頼を行った。

調査項目

①キャリア行動に関する3項目、②キャリア意識に関する5項目、③キャリア支援・教育の活用状況に関する4項目、④回答者の属性に関する3項目について回答を求めた¹⁾。

結果と考察

集計結果

(1) お茶大生のキャリア行動

就職・進学先の決定状況

まず、現在、就職・進学先が決まっているか(内定が出ているか)について、「1 就職先が決まっている」「2 進学先が決まっている」「3 まだ決まっていない」「4 まだ考えていない」の4肢択一で回答を求めた。その結果、調査実施時である10月～11月時点で、就職先が決まっているものは、学部4年生では48.8%、博士前期課程2年生では59.4%であり、その他の学年では、ほとんどなかった(Figure 1)。また、進学先が決まっているものは、学部4年生では

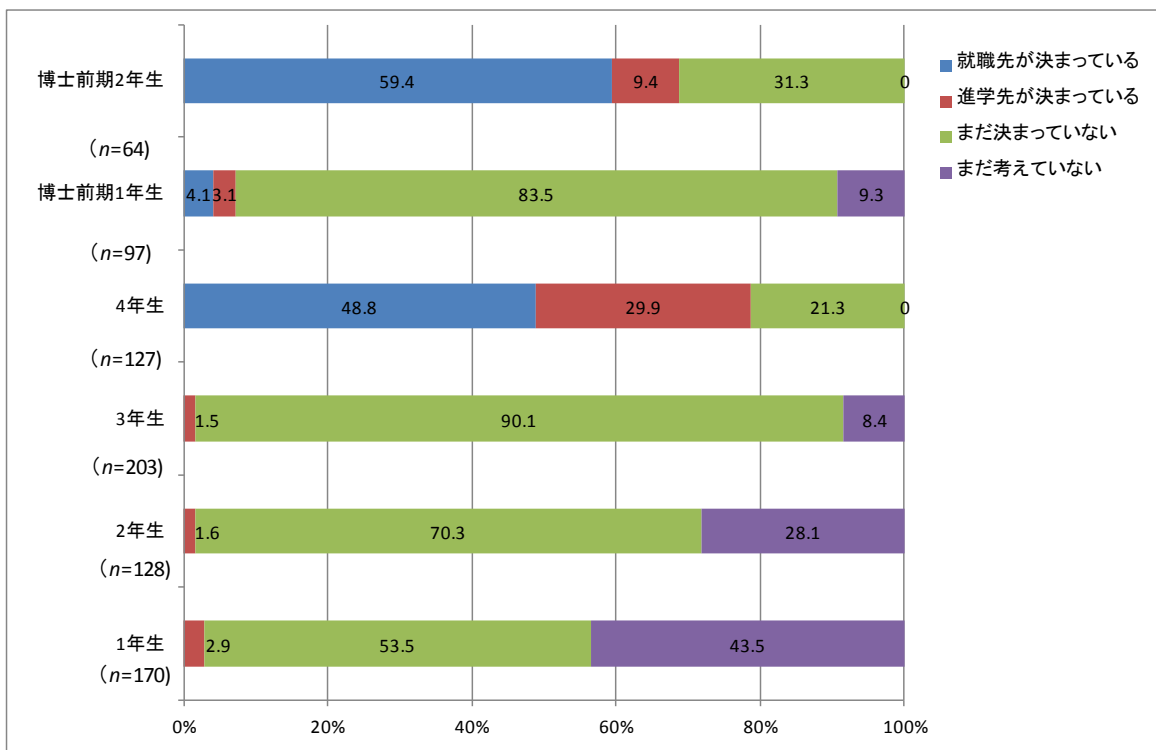


Figure 1 就職・進学先の決定状況 (学年別)

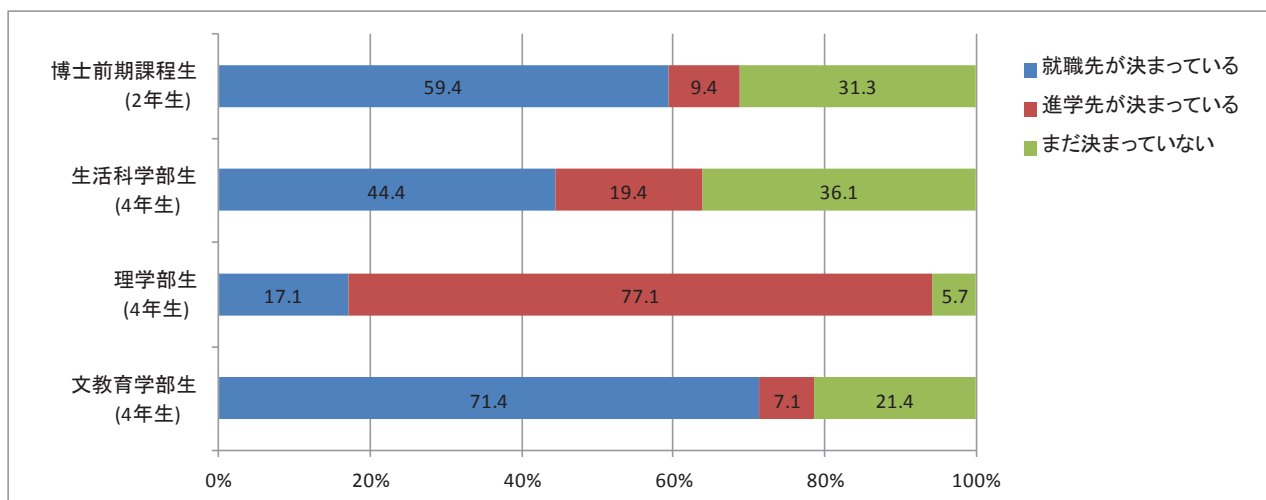


Figure 2 就職・進学先の決定状況 (学部・専攻別)

29.9%、博士前期課程2年生では9.4%であり、その他の学年では、ほとんどなかった。中小企業を中心に、今後採用を進める企業も多いため、内定率は年度末に向けて上昇する見込みだが、学部生の21.3%、博士前期課程生の31.3%がまだ決まっていないと回答しており、こうした学生への個別的支援も継続して行う必要があると考えられる。

次に、学部4年生と博士前期課程2年生のみを対象として、学部、専攻別に結果を示した (Figure 2)。その結果、文教育学部では就職先が決まっている割合が7割程度と高く、理学部では進学先が決まっている割合が8割程度と高い一方、生活科学部、博士前期課程生ではまだ決まっていない割合が3割以上と高い傾向が見られた。

厚生労働省によれば、2011年10月時点の大学生の就職内定率 (就職希望者に占める内定取得者の割合)

は、全体では59.9%、女子では57.7%となっている。上述した本学の結果は、全体における内定者の割合であり、就職希望者に占める割合ではないものの、本学の内定者の割合は、学部、専攻間で大きく違いが見られ、その割合は、総じて高いとはいえないと考えられる。

就職先の内訳

就職先が決まっていると回答した者のみを対象として、就職先の内訳について、「民間企業」「教員」「公務員」「その他」の4肢択一で尋ねた。その結果、学部生では、全学部とも、民間企業が最も多く、次いで公務員が多い結果となり、博士前期課程生でも、同様の傾向が見られた (Figure 3)。Benesse教育研究開発センター (2005) の全国調査によれば、女子では、民間企業45%、教員9.3%、公務員11.1%、進学

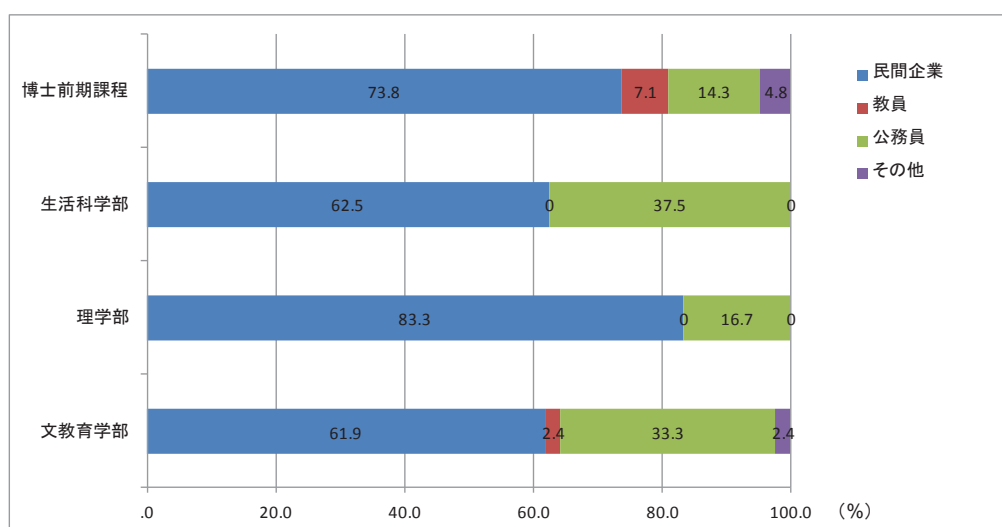


Figure 3 就職先の内訳 (学部・専攻別)

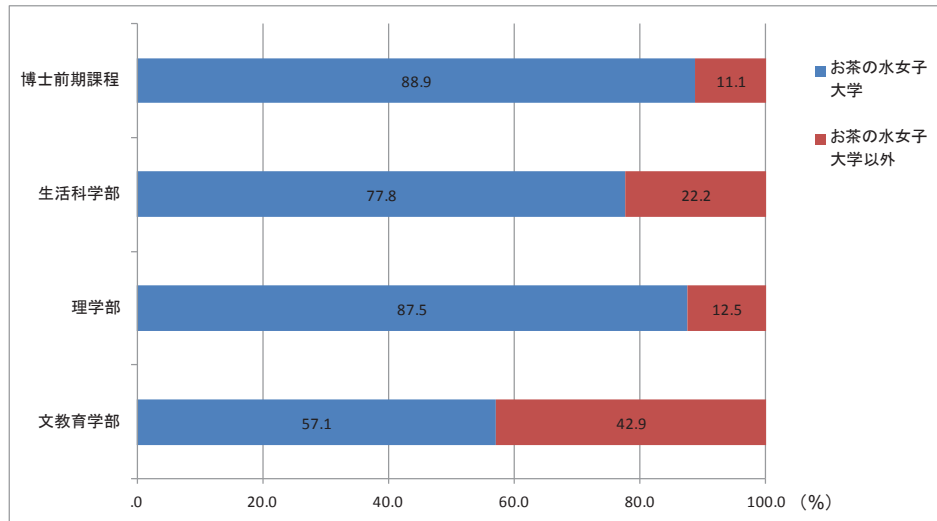


Figure 4 進学先の内訳 (学部・専攻別)

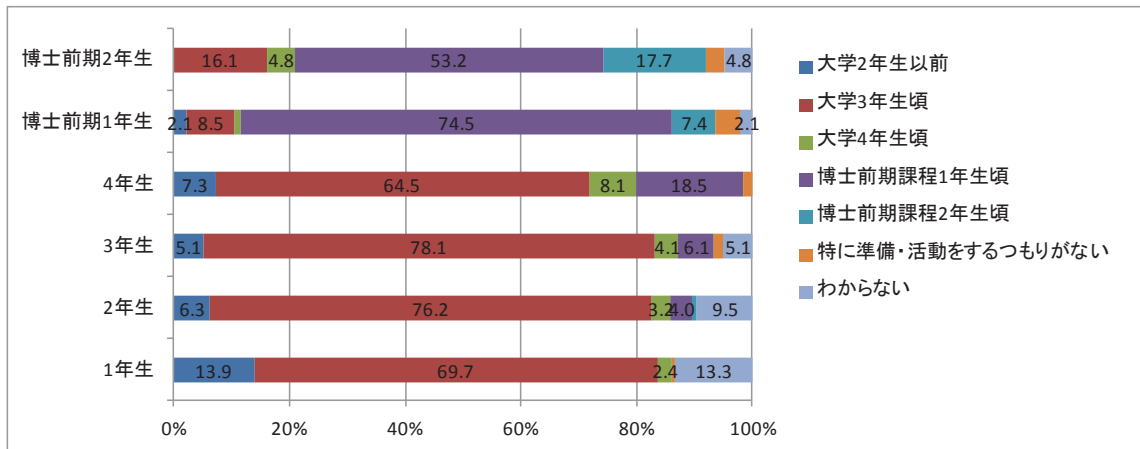


Figure 5 進路に向けた準備・活動を始めた時期 (学年別)

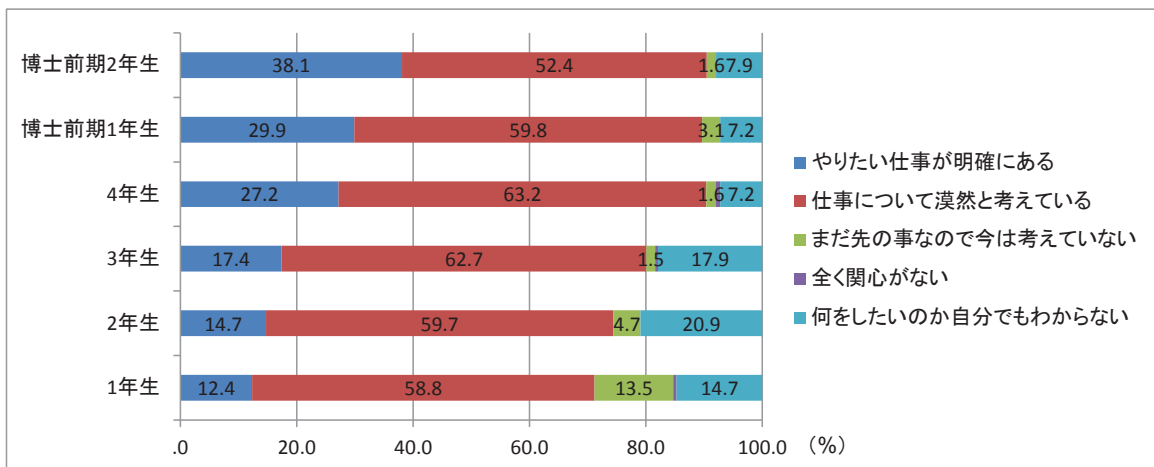


Figure 6 将来のキャリアに対する意識 (学年別)

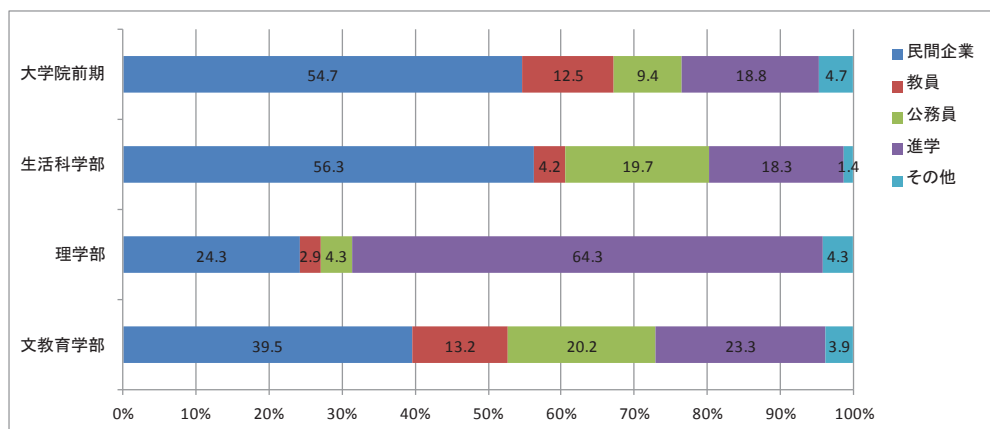


Figure 7 一番希望する進路 (学部・専攻別)

9.5%、その他 8.7% であり、本学の結果と比較すると、本学の学部生は、公務員の比率が高く、博士前期課程生は民間企業の比率が高いといえる。

また、進学先が決まっていると回答した者のみを対象として、進学先について、「お茶の水女子大学」「お茶の水女子大学以外」の2肢択一で尋ねたところ、学部生、博士前期課程生共に、お茶の水女子大学への進学率が圧倒的に高いことが明らかとなった (Figure 4)。

進路に向けた準備・活動を始めた時期

進路に向けた準備・活動を始めた (始める予定) 時期について尋ねた結果、学部生では、いずれの学年でも大学3年生頃が多く、博士前期課程生では、博士前期課程1年生頃が多かった。Benesse 教育研究開発センター (2008) の全国調査でも、本学の学部生と同様の傾向が示されている (Figure 5)。

(2) お茶大生のキャリア意識

将来のキャリアに対する意識

将来のキャリアについてどのように考えているかを、「やりたい仕事がある」「仕事について漠然と考えている」「まだ先の事なので今は考えていない」「全く関心がない」「何をしたいのか自分でもわからない」の5肢択一で回答を求めた。その結果、学部生、博士前期課程生共に、学年が上がるにつれ、「やりたい仕事がある」の比率が高くなっており、将来のキャリアがより明確になっていくものと考えられる (Figure 6)。ただし、全ての学年で、「仕事について漠然と考えている」が最も多いことから、学部4年生や博士前期課程2年生で内定が出ている学生でも、仕事についての明確なイメージがもてない場合も多いと考えられる。

希望進路

一番希望する進路について、「民間企業」「教員」「公務員」「進学」「その他」の5肢択一で回答を求めた。その結果、学部・専攻別に見ると、最も多かったのは、文教育学部では民間企業 (39.5%)、理学部では進学 (64.3%)、生活科学部では民間企業 (56.3%)、博士前期課程生では民間企業 (54.7%) であった (Figure 7)。Benesse 教育研究開発センター (2005) の全国調査によれば、女子の希望進路では、民間企業 45%、教員 9.3%、公務員 11.1%、進学 9.5%、その他 8.7% であり、本学の結果と比較すると、本学の学部生では公務員や進学を希望する割合が高く、博士前期課程生では民間企業を希望する割合が高いといえる。

希望する産業

先述した希望進路で「民間企業」を選んだ人を対象に、最も希望する産業について、「製造業 (メーカー)・建設業」「商社・卸売」「百貨店・小売店・飲食店」「金融・保険業」「運輸・通信・電気・ガス」「マスコミ・広告・調査」「ソフトウェア・情報処理」「教育」「その他のサービス業」「その他」から回答を求めた。その結果、学部・専攻別に見ると、文教育学部ではマスコミ・広告・調査 (36.4%)、理学部、生活科学部、博士前期課程では、製造業・建設業 (それぞれ 42.4%、47.5%、53.8%) であった (Figure 8)。Benesse 教育研究開発センター (2005) の全国の学部生を対象とした調査によれば、女子の希望業種では、製造業・建設業 35.9%、情報通信業 (電話、放送、出版、新聞、情報サービス、本調査のマスコミ・広告・調査にあたる) 23.4% の順に高く、本学の調査結果と同様の傾向が認められる。

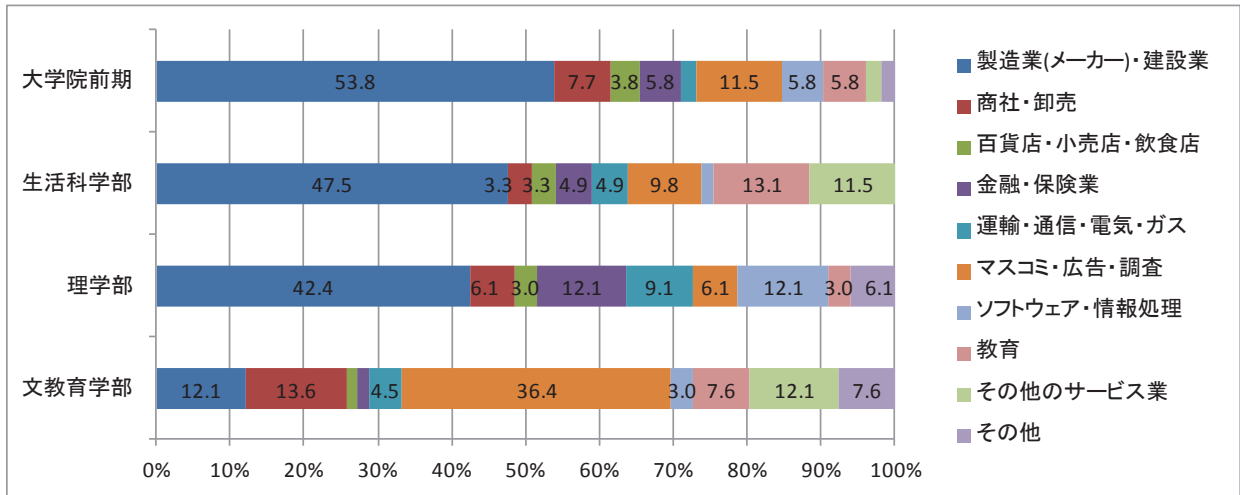


Figure 8 一番希望する産業(学部・専攻別)

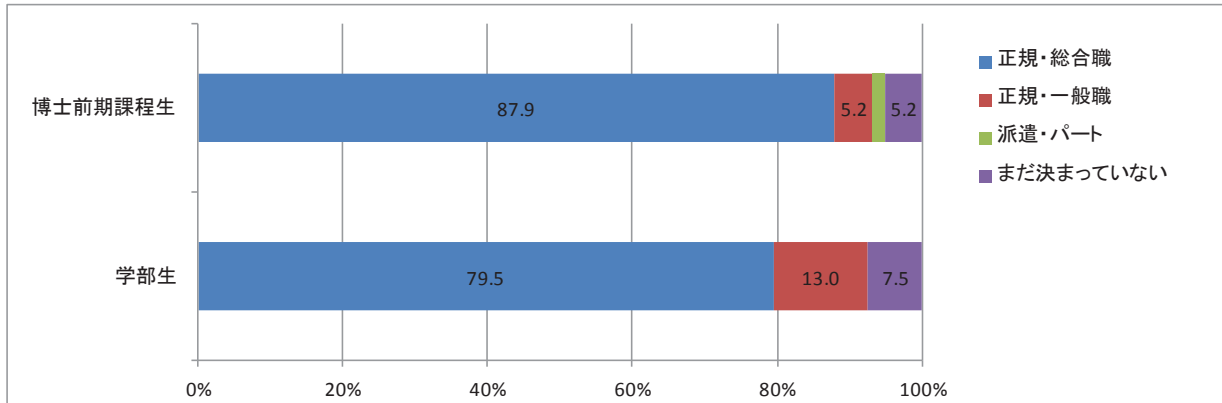


Figure 9 希望する就業形態

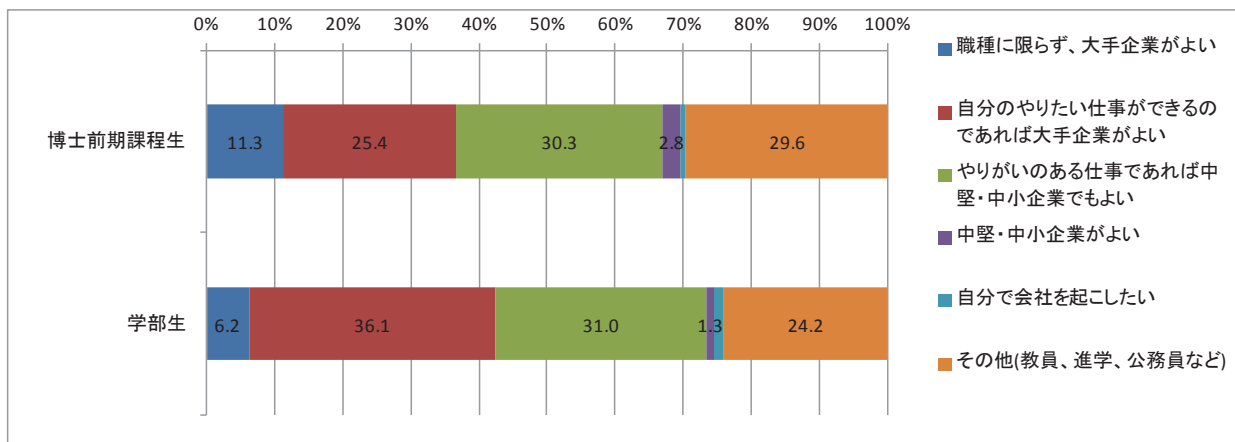


Figure 10 企業規模の志向

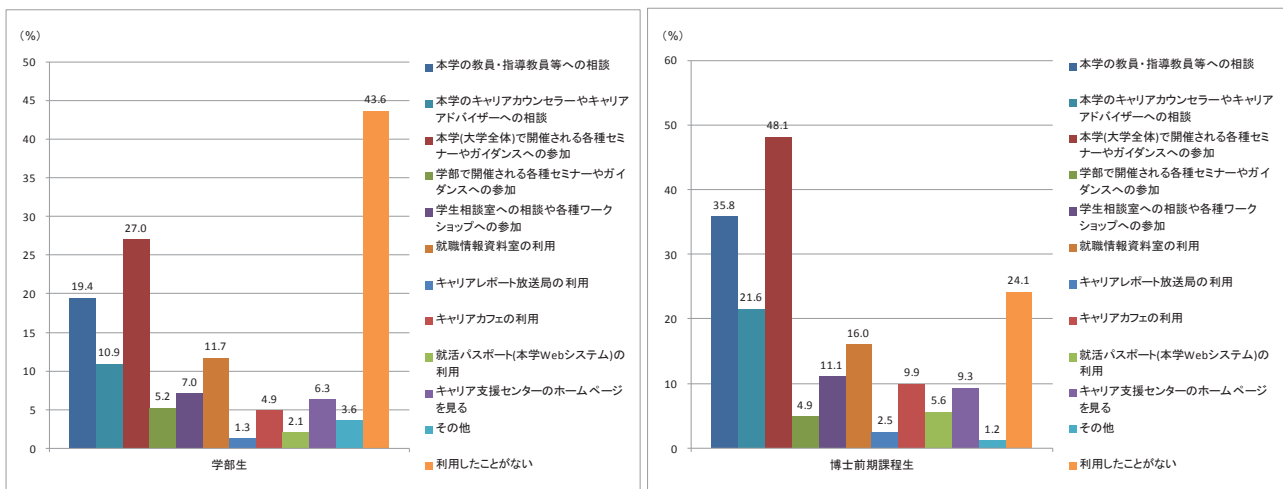


Figure 11 本学のキャリア支援の利用状況

希望する就業形態

先述した希望進路で「民間企業」を選んだ人を対象に、どのような就業形態で働くことを希望しているかについて、「正規・総合職」「正規・一般職」「派遣・パート」「まだ決まっていない」の4肢択一で回答を求めた。その結果、学部生、博士前期課程生共に、正規・総合職（それぞれ79.5%、87.9%）を希望する割合が圧倒的に高いことが示された（Figure 9）。リクルート（2009）の全国調査によれば、女子では総合職希望59.2%、一般職希望55.7%（複数回答可）となっており、本学の結果を見ると、総合職を希望する割合が大きく上回っているといえる。

企業規模の志向

どのような規模の企業で働くことを希望しているかを尋ねた結果、学部生、博士前期課程生共に、「自分のやりたい仕事ができるのであれば大手企業がよい」36.1%、25.4%、「やりがいのある仕事であれば中堅・中小企業でもよい」31.0%、30.3%、「その他（教員・進学・公務員など）」24.2%、29.6%が多いことが示された（Figure 10）。

マイコミ（2010）の全国調査によれば、「大手企業がよい」7.8%、「自分のやりたい仕事ができるのであれば大手企業がよい」39.2%、「やりがいのある仕事であれば中堅・中小企業でもよい」43.4%、「中堅・中小企業がよい」4.2%、「自分で会社を起こしたい」0.7%、「その他」4.8%となっている。本学の結果と比較すると、大手企業、中小企業志向に大きな違いは見られないが、本学では、「その他」の割合が多く、教員、進学、公務員などを希望する割合が高いといえる。したがって、民間企業への就職支援にあわせて、こうした進路を希望する学生への支援も行っていく必

要があると考えられる。

(3) キャリア支援・教育の活用状況

キャリア支援の利用状況

本学のキャリア支援を利用したことがあるかについて、複数回答可で尋ねたところ、学部生では「利用したことがない」が最も多く（43.6%）、博士前期課程生では、「本学（大学全体）で開催される各種セミナーやガイダンスへの参加」が最も多い（48.1%）ことが示された（Figure 11）。このことから、特に学部生は本学のキャリア支援の利用が半数程度に留まっており、学部生へのキャリア支援の利用の呼びかけをより一層行っていく必要があると考えられる。

キャリア支援の充実度

本学のキャリア支援が十分行われていると思うかを尋ねたところ、学部生、博士前期課程生共に、「まあまあ行われている」が、それぞれ54.6%、52.7%で最も多く、次いで、「あまり行われていない」が、それぞれ28.6%、35.1%であることが示された（Figure 12）。本学の在学生を対象とした「お茶大生の学習環境と生活・意識に関する調査」（2010）では、本学の学生支援活動で足りないものとして「就職支援」「進路相談」の高さが示されている。これらのことから、本学のキャリア支援が十分とは言えず、今後力を入れることが求められているといえよう。

キャリア関連の授業の受講率

学部生を対象に、本学のキャリア関連の授業を受講したことがあるかを尋ねたところ、受講した経験があるのは31.1%、受講中は7.3%、これから受講したいは17.7%、受講するつもりがないは31.8%、プ

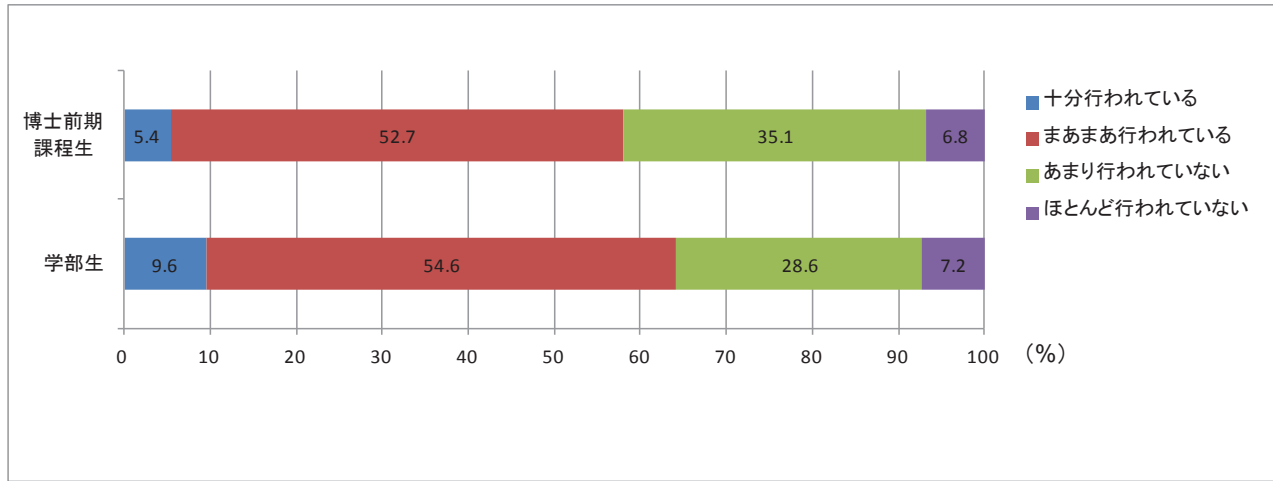


Figure 12 本学のキャリア支援の充実度

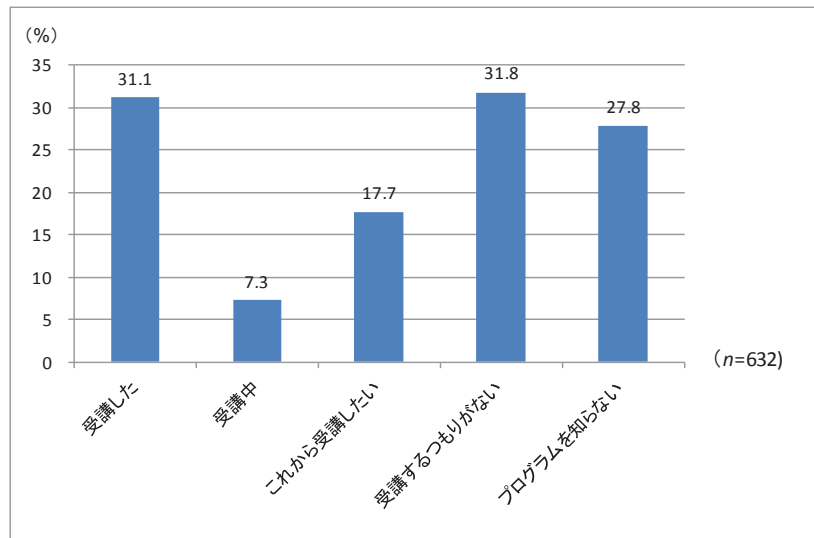


Figure 13 キャリア関連の授業の受講率

プログラムを知らないは27.8%であることが示された (Figure 13)。複数回答ではあるものの、「受講した」と「受講中」を合わせると4割近くになることから、キャリア関連の授業の受講率は、それなりに高いといえる。一方、「受講するつもりがない」や「プログラムを知らない」と回答したのも、それぞれ3割程度いることが示された。

また、「受講した」「受講中」をあわせると、お茶の水女子大学論の受講が26.3%でもっとも多く、受講したい授業では、「キャリアプランとライフプランII」6.4%、「インターンシップ」6.1%、「女性リーダーへの道 (入門編)」5.8%の順に高いことが示された (Figure 14, 15)。

キャリア関連の授業の役立ち度

先述したキャリア関連の授業が、自分のキャリア形

成に役立つと思うかについて尋ねたところ、「とても役立つと思う」は11.9%、「かなり役立つと思う」は55.0%、「少しは役立つと思う」は8.0%、「あまり役立つたないと思う」は1.8%、「分からない」は23.3%であった (Figure 16)。「とても役立つと思う」と「かなり役立つと思う」を合わせると66.9%であり、7割程度の学生に役立つと感じられている様子が窺える。一方、「分からない」という回答も23.3%となっており、授業の意義が分からない、授業の内容が将来のキャリア形成に結び付くのか分からないと考えて、受講しない学生もいるものと考えられる。したがって、今後は、キャリア関連の授業についての情報提供をさらに行っていき、授業を自分のキャリア形成に役立てられるように支援していくことが必要ではないだろうか。

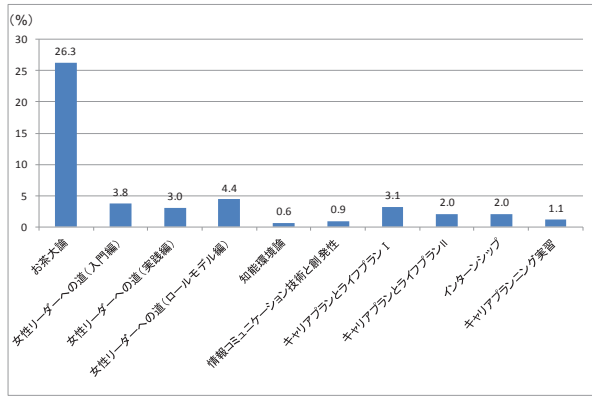


Figure 14 受講した・受講中の授業

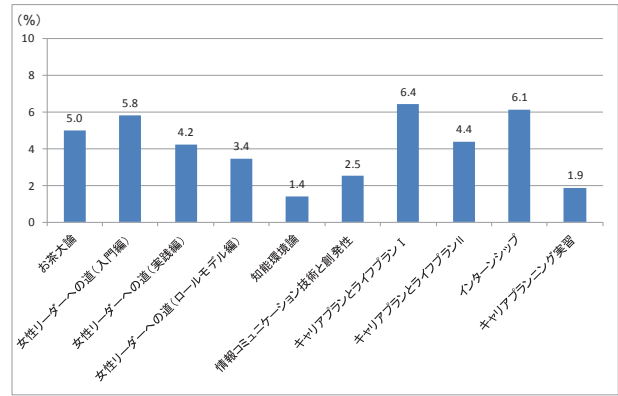


Figure 15 受講したい授業

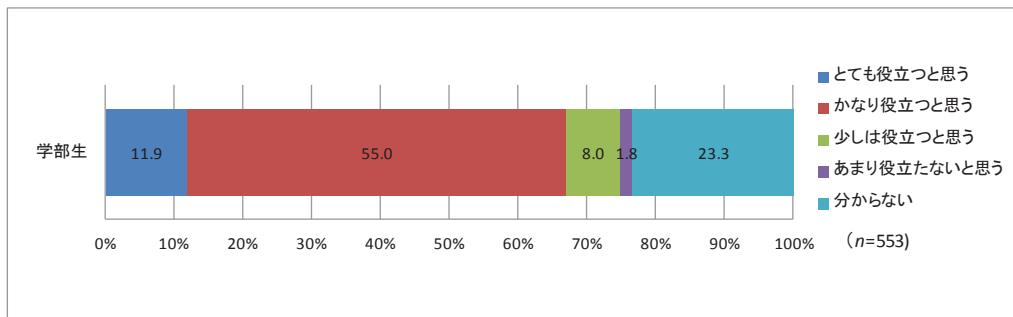


Figure 16 キャリア関連の授業の役立ち度

(4) 奨学金制度・授業料免除制度・学生寮の利用状況

本学では、日本学生支援機構、地方公共団体や民間団体等からの奨学金のほかにも、大学独自の奨学金を多数用意している。これらの奨学金制度の利用状況を尋ねた結果、日本学生支援機構の奨学金の利用者は32.6%であり、その他の奨学金制度の利用者は、いずれも5%未満であった。

また、授業料免除制度の利用状況を尋ねた結果、利用者は8.9%であった。

さらに、本学の3つの学生寮への入寮および申請、検討状況を尋ねた結果、入寮を考えたことはない者は56.9%であり、43.1%の者は、現在入寮していたり、入寮の申請や検討をしていた(している)ことが示された。

経済・生活支援の利用とキャリア支援への評価との関連

次に、奨学金制度、授業料免除制度、学生寮の利用状況とキャリア支援への評価との関連を示す。

奨学金制度の利用状況とキャリア支援に対する評価の関連

日本学生支援機構の奨学金制度の利用状況と本学の

キャリア支援全体に対する評価との関連を示した結果、本学のキャリア支援の評価率(「十分行われている」と「まあまあ行われている」を合わせた割合)は、奨学金制度利用者、非利用者ともに6割以上であり、有意差は見られなかった(Figure 17)。

授業料免除制度の利用状況とキャリア支援に対する評価の関連

授業料免除制度の利用状況と本学のキャリア支援全体に対する評価との関連を示した結果、本学のキャリア支援の評価率は、授業料免除制度利用者、非利用者ともに6割以上であり、有意差は見られなかった(Figure 18)。

学生寮の利用状況とキャリア支援に対する評価の関連

学生寮の利用状況と本学のキャリア支援全体に対する評価との関連を示した結果、本学のキャリア支援の評価率は、学生寮の利用状況にかかわらず、いずれも5~6割であり、有意差は見られなかった(Figure 19)。

これらの結果から、経済・生活支援の利用の有無とキャリア支援への評価の関連は見られず、必ずしも経済・生活支援の利用者が非利用者より有益であると感

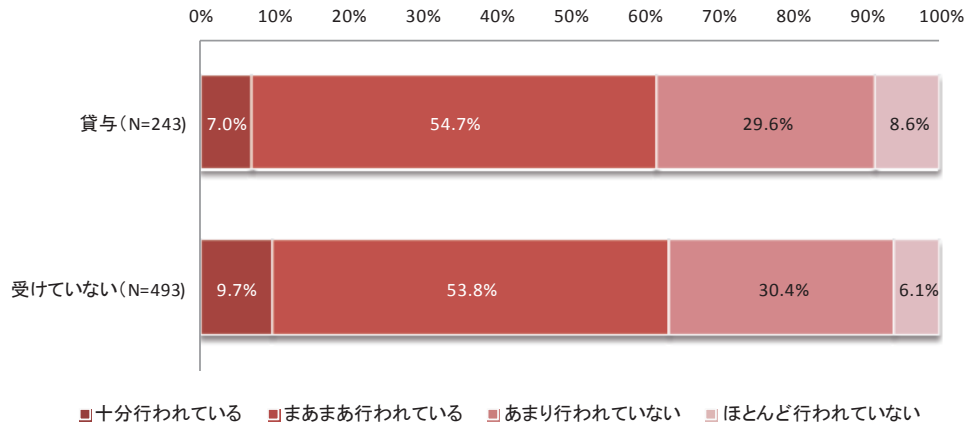


Figure 17 奨学金制度の利用状況とキャリア支援に対する評価の関連

じているわけではないことが示唆された。ただし、キャリア支援の利用状況は、学生の学年や卒業後の進路希望などの影響を強く受けることは言うまでもなく、今回見られた知見は慎重に解釈する必要があるだろう。

キャリア関連授業の受講とキャリア意識との関連

次に、キャリア関連授業の受講状況と希望する進路、希望する就業形態、企業志向との関連を示す。

受講状況と希望する進路の関連

キャリア関連授業の受講状況と希望する進路との関連を示した結果、キャリア関連授業を受講した・受講中・受講したいと回答した者は、民間企業への就職希望が4割から5割を占め、続いて進学希望者が3割弱であることが示された。また、「プログラムを知らない」と回答した者は、進学希望が4割弱と最も高く、「受講するつもりがない」と回答した者は進学希望と民間企業就職希望が高いことが示された (Figure 20)。

受講状況と希望する就業形態の関連

キャリア関連授業の受講状況と希望する就業形態との関連を示した結果、キャリア関連授業を「受講した」「受講中」「受講したい」と回答した者で正規・総合職希望は、86%～100%であった。一方、「受講するつもりがない」「プログラムを知らない」では「正規・一般職」への希望も15%～22%程見られた。また、「受講中」という回答者以外では「まだ決まっていない」と回答した者が1割弱いることが示された (Figure 21)。これらのことから、本学では学部全体の傾向と

して、正規・総合職希望が多いことが示されているが (Figure 9 参照)、キャリア関連科目の受講者・受講希望者には特にその傾向が強いと考えられる。

受講状況と企業志向の関連

キャリア関連授業の受講状況と企業志向との関連を示した結果、「受講した」「受講中」「受講したい」との回答者には、少ない数ではあるものの、自ら起業したいと考えている人がいることが示された (2%～3%程度)。また、これらの受講者・受講希望者には、中堅・中小企業がよいとの回答が見られなかった (Figure 22)。このことから、キャリア関連授業の受講者の中には、大手志向や起業したいという者の割合が多い可能性が考えられる。

一方、「受講するつもりがない」との回答者は、「その他」が、32%と最も多かった。このことから、「受講するつもりがない」と回答した者は、受講者・受講希望者に比べ、教員・進学・公務員希望が多いものと考えられる。「キャリアデザインプログラム」は民間企業就職だけでなく、進学等にも必要なコンピテンシー育成を目指しているが、学生の認知では、キャリア＝民間企業就職という意識が強いのかもしれない。

まとめと今後の課題

本調査研究では、本学の学生のキャリア行動、キャリア意識の実情を踏まえ、有効な支援方法を検討することを目的とした。その結果、学生のキャリア行動、キャリア意識は、学年、学部によって異なりが見られ、総じて、文教育学部生、生活科学部生、博士前期課程生では、就職希望が多く、中でも民間企業や公務員の希望が多い一方、理学部ではお茶大への進学希望が多

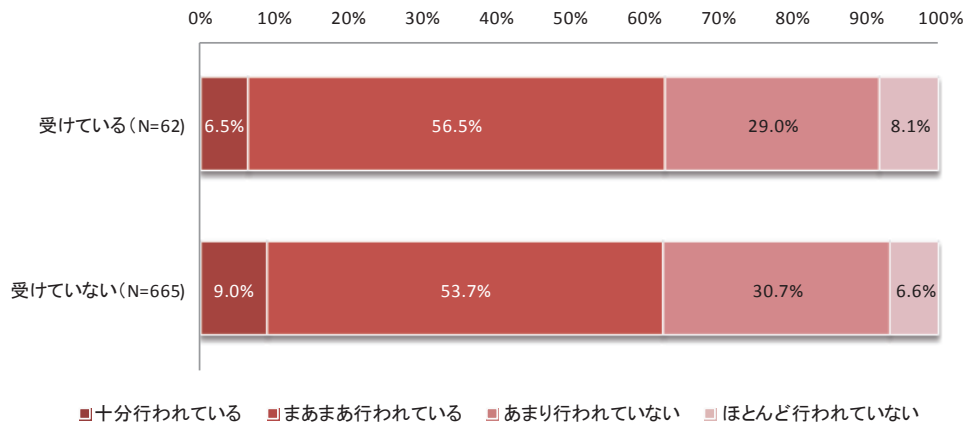


Figure 18 授業料免除制度の利用状況とキャリア支援に対する評価の関連

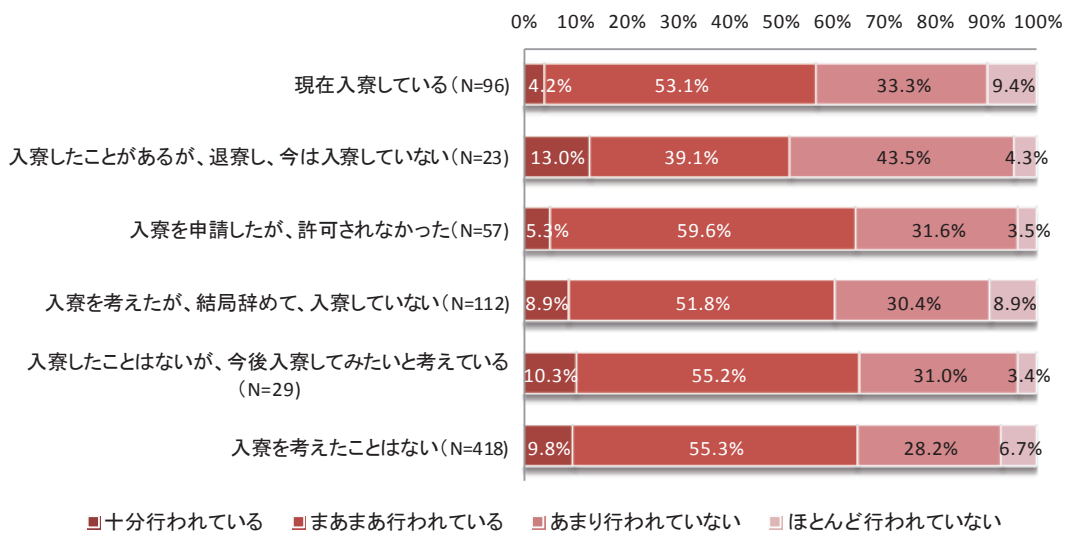


Figure 19 学生寮の利用状況とキャリア支援に対する評価の関連

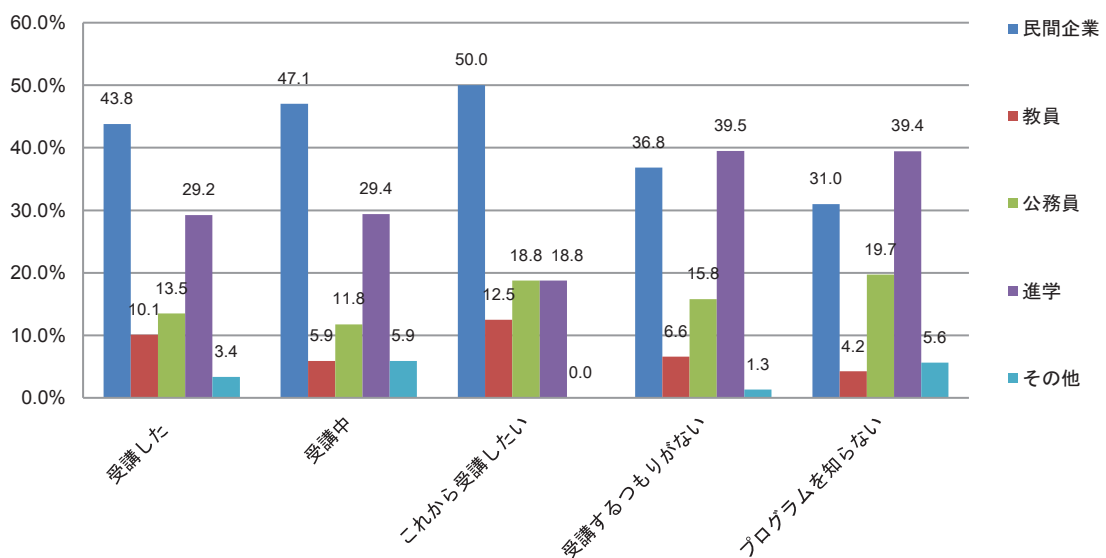


Figure 20 受講状況と希望する進路

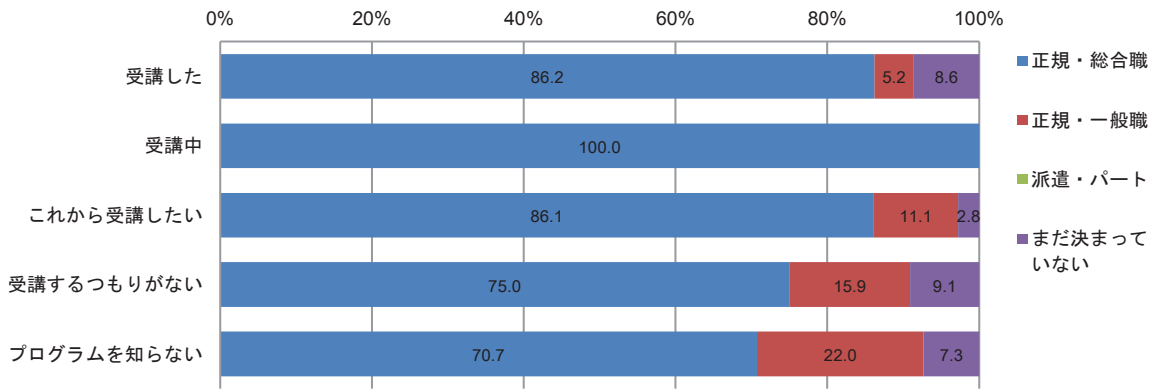


Figure 21 受講状況と希望する就業形態

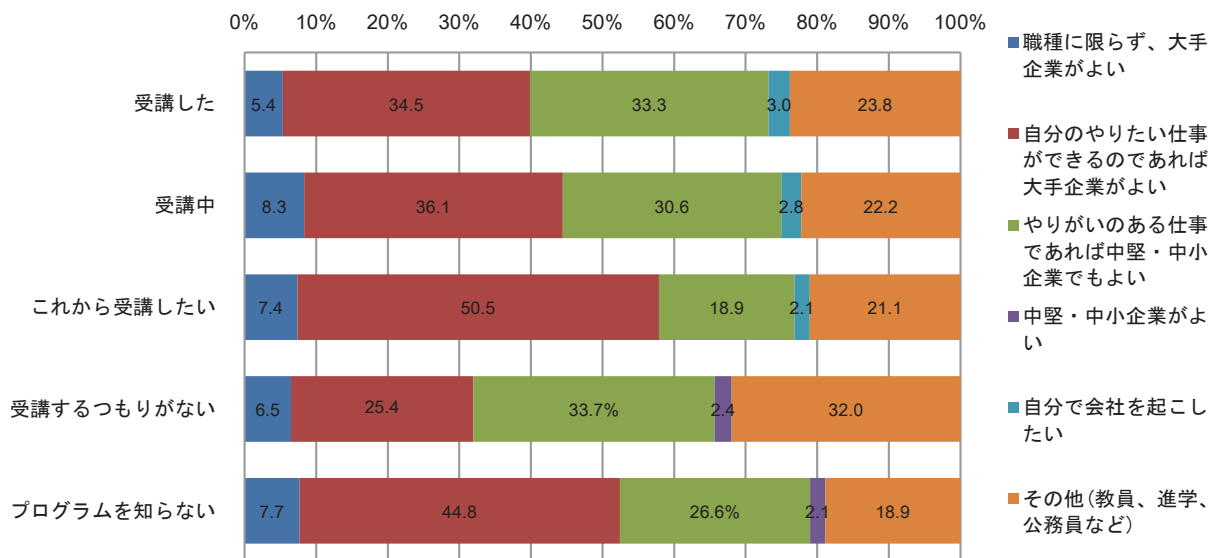


Figure 22 受講状況と企業志向

いことが分かった。また、学生全体の特徴として、就業形態では、正規・総合職の希望が多く、企業規模では、大手に限らず中小企業や教員、進学、公務員などを希望する割合も高いことが分かった。したがって、本学の学生のキャリア意識を踏まえ、民間企業への就職支援にあわせて、進学や公務員、教職、専門職などの支援もより充実させていく必要があるだろう。

また、経済・生活支援の利用の有無とキャリア支援への評価の関連は見られなかったものの、キャリア支援の利用状況は、学生の学年や希望進路などの影響を強く受けることは言うまでもなく、本調査の知見は、慎重に解釈する必要があると考えられる。

さらに、キャリア関連授業の受講者は、非受講者より、就職希望、正規・総合職希望、大手企業志向が多いことが分かった。したがって、キャリア関連授業

が、就職希望者だけでなく、公務員希望者や進学希望者等にも必要なコンピテンシー育成を行っていることを学生へ広く周知し、就職希望者以外の学生にとっても、有益な授業であることを示していく必要があるだろう。

今後は、これらの課題を踏まえ、分析をさらに深めながら、経済・生活支援やキャリア支援を有効に、かつ、統合的に行うための具体的な方策を検討し、実践にあたりたい。

注

*1 質問項目には他の項目も含まれていたが、本分析には用いなかったため、割愛した。

※ 本調査の報告書は学生・キャリア支援チームで冊子を

入手できるほか、TeaPot からも PDF 形式でダウンロードいただけます。

※ 報告書の一部は、学生支援センターホームページ内「調査結果のご報告」にて、「Research Report」として紹介しております。

参考文献

Benesse 教育研究開発センター (2005) 「進路選択に関する振り返り調査」

<http://benesse.jp/berd/center/open/report/shinrosentaku/2005/pdf/shinrosentaku04.pdf>

Benesse 教育研究開発センター (2008) 「大学生の学習・生活実態調査」

http://benesse.jp/berd/center/open/report/daigaku_jittai/hon/pdf/data_10.pdf

厚生労働省・文部科学省 (2011) 「平成 23 年度大学等卒業予定者の就職内定状況調査」

<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r9852000001vbzs-att/2r9852000001vcli.pdf>

リクルート (2009) 「大学生の就職企業希望ランキング」

http://www.recruit.jp/news_data/data/job/J20090408/docfile.pdf

文部科学省 (2011) 「平成 22 年度大学等卒業者の就職状況調査」

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/23/05/___icsFiles/afldfile/2011/05/24/1306351_1_1.pdf

2012 年 2 月 24 日 受稿
教育機構実施調査により受理